

ESA は 127.0.0.1 に送信されるバウンス メッセージをどう処理しますか。

目次

質問：

ESA は 127.0.0.1 に送信されるバウンス メッセージをどう処理しますか。

スパムの発信者がメールを送信するとき、127.0.0.0/8 ブロックのどのアドレスでもループバック目的で予約済みであるが)、時折予約済みの IP ループバックアドレス (一般的に 127.0.0.1 の 1 つに解決するドメイン名からのメールを起こします。これらのアドレスはまた大容量メールワームで時折メールを受け取るように造られたソースドメイン名は決して設計されていなかったし、こうしてメールを落胆させる不正な IP アドレスがあるときに、見つけられます。

ループバックアドレスに解決するそのようなドメイン名においての問題はメッセージを提供するためになにも疑わない MTA がアドレスに接続するように試みるかもしれませんことです。ループバックアドレスが同じ MTA に戻って接続するので、ループは生成することができます。ヘッダが跳ねられたメッセージでどのようにによっては形成されるか、ループは特に高価である場合もありますすべてのシステム リソースを消費するには結局十分に大きくなります。

ESA はこの病理学シンドロームを避けます。DNS lookup がループバック範囲 (127.0.0.0/8) の IP アドレスという結果に終る時、AsyncOS SMTP クライアントはそのようなメッセージを提供するように試みません。によって mail_logs ログの検知この動作を観察できます。次のログ抄録は IP アドレス 127.0.0.1 に解決する戻りアドレスドメイン名と送信されるメッセージを表示します。メッセージが提供することができないとき AsyncOS は DNS がループバックアドレスを指しているのでバウンス メッセージを作成しが、跳ねられたメッセージを試みないし、提供しません。

```
DEC 9 22:06:03 2004 : MID 524 ICID 322
DEC 9 22:06:03 2004 : MID 524 ICID 322 : < loopme@loopback.example.com >
DEC 9 22:06:08 2004 : MID 524 ICID 322 RID 0 : <illegal99999@example.com>
DEC 9 22:06:09 2004 : MID 524 ID '<3157rh$gc@mail.example.com>'
DEC 9 22:06:10 2004 : < loopme@loopback.example.com > MID 524 9
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 524 recipientpolicy
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 524 Brightmail
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 524
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 524
DEC 9 22:06:10 2004 : SMTP DCID 160 192.35.195.101 192.245.12.7
DEC 9 22:06:10 2004 : RID [0] DCID 160 MID 524
DEC 9 22:06:10 2004 : : DCID 160 MID 524 RID 0 - 5.1.0 - address '550'['5.1.1 :
illegal99999@example.com']
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 524 MID 525
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 525 ICID 0
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 525 ICID 0 : <>
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 525 ICID 0 RID 0 : <loopme@loopback.opus1.com>
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 525
DEC 9 22:06:10 2004 : MID 524
```

DEC 9 22:06:10 2004: 0.x.x.x 127.x.x.x domain=loopback.example.com

DEC 9 22:06:10 2004 : ICID 322

DEC 9 22:06:15 2004 : DCID 160